豊川市教育委員会　生涯学習課発行

発掘だよりNo.３６

平成15年8月24日（日）発行

〒442-8601 豊川市諏訪１丁目１番地
TEL(0533)89-2158（直）

平成15年度国分寺北遺跡（八幡砦跡）発掘調査の概要

市教育委員会では、豊川西部土地区画整理事業に伴い、平成10年度から国分寺北遺跡の発掘調査を実施しています。

国分寺北遺跡は、遺跡の東側に展開する律令期（奈良～平安時代中期）の三河国分寺跡に関連する遺構群と、西側に展開する戦国時代（16世紀）の八幡砦跡に関連する遺構群の大きく二つのエリアに分かれます。

今回調査を行っている地点は、遺跡の西側に展開する八幡砦跡の城跡内に位置し、城跡に関連する遺構・遺物が多数確認されています。

１．調査概要

・ 調査期間　平成15年４月上旬から８月末まで
・ 調査理由　区画整理事業に伴う事前調査
・ 調査主体　豊川市教育委員会
・ 調査面積　３，０６４㎡（平成10年度からの累計は１６，３２８㎡）
　※ なお、八幡砦跡に関しては城跡の全体面積約10,000㎡に対して、過去の調査を含めて約6,000㎡の調査が終了しており、城跡全体の約三分の二の面積を調査したことになります。

２．確認された遺構・遺物

今回の調査では、八幡砦跡の城跡内であるため、確認された遺構・遺物も戦国時代を中心としたものとなっています。このほか、古いものでは旧石器時代、縄文時代の遺構・遺物も少量確認されています。

・旧石器時代

この時代の遺構は確認されていませんが、戦国期の遺構や表土・包含層内から旧石器時代の石器類が出土しています。

西古瀬川によって侵食された谷に面した舌状台地上からはこの時代の石器が出土することが多く、国分寺北遺跡を含めたこの豊川市西部地区が旧石器時代の遺跡群として捉えることができそうです。

・縄文時代

今回の調査区内から３基の焼成土坑が確認されています。過去の調査でも同様の土坑が検出されていましたが、出土遺物がなく時期が特定できていませんでした。今回初めて土坑内

から縄文土器が１点出土し、これらの土坑が縄文時代のものであることが判明しました。
過去の調査では縄文時代の落とし穴状遺構なども確認されているため、この地域が縄文時代の狩り場であったことが推定されます。

・戦国時代

この時代は城跡として機能している時代であるため、遺構はもっとも多いですが、城の存続期間が短く、短命な城であったため出土遺物は少量出土したのみです。

土塁

土塁は本来城跡全体を廻っていたものと推定されますが、現存しているものは北辺と西辺のみです。２ヶ所で断ち割りを行った結果、荒い積み方であることが判明しました。通常積み上げた土の流出を防ぐために、土を突き固める版築という手法が多く用いられますが、この城の土塁は単に土を積み上げただけの単純なもので、当時の緊迫した状況の中で、短時間に城の構えを作り上げなくてはならなかった緊張感がこの土塁の積み方にもうかがい知れます。
なお、土塁の北西隅には敵の侵入を監視するために設けられた物見台跡が確認されています。

堀

今回の調査では１ヵ所で堀跡を確認していますが、過去の調査では城跡の東側には約 100 mにわたって堀が掘られていることが分かっています。
堀の規模は幅約５～６mですが、深さは深いところでも２m程しかなく、これで敵の侵入を防ぐことができたかということについては、疑問が残ります。これも急場しのぎで構築したことによるものかも知れません。
堀の中央には城内への出入り口と考えられる土橋状の遺構が検出され、その外側には小規模な堀がコの字状に廻っています。桝形もしくは馬出しといった防御施設の可能性が考えられます。

掘立柱建物跡

八幡砦跡の関連する建物としては掘立柱建物跡が総計で 11 棟が検出されています。このうち今回の調査区内からは４棟が見つかっています。
ただし、確認された建物のいずれも小規模なものばかりで、この城の主となる建物はまだ調査を行っていない未掘地点に眠っているものと推定しています。

井戸跡

調査区南寄りの地点から素掘りの井戸が１基確認されました。直径約 1.6m、深さは３m ほどまで掘り下げましたが、湧水点に達したためそれ以上の掘り下げは行っていません。本来の深さは５m程はあったものと思われます。
遺物は 16 世紀後半の陶器類が出土しているため八幡砦に伴う井戸跡と考えています。城には井戸は必ず必要で、この井戸も城にとって大変重要な水源であったと考えられます。

3．八幡砦跡の歴史

永録3年（1560年）の桶狭間の戦いで今川義元が討たれてから、いったん駿河（静岡）に引き返した今川氏が、東三河進出を図りだした松平（徳川）を意識して構築したのがこの八幡砦です。

今川氏は家督を氏真（うじざね）が継ぎ、吉田・牛久保を防御するための前線基地としてこの八幡砦と、御津町に佐脇砦を構築したと考えられています。

岡崎方面から東海道を通って御油にでる敵には八幡砦、沿岸からの敵には佐脇砦が配置され、八幡砦には板倉弾正重定が、佐脇砦には三浦左馬助義就が城の守りとしてそれぞれ配置されたと言われています。

永禄5年（1562年）9月にこの両砦において大きな合戦がありました。

松平元康（徳川家康）の家臣酒井忠次が一千余騎の兵を率いてこの両砦を攻めました。守りにあたった板倉弾正重定と三浦左馬助義就が応戦し、また二連木城主戸田康重らや、牛久保城主牧野保成らが反撃し、いったん酒井の軍勢は御油まで退きました。

新たな兵を引き連れてきた松平勢は軍勢を立て直し、反撃にでて、板倉弾正重定らを討ち、勢いに乗った松平勢は、八幡砦と佐脇砦を攻め取り、戸田は二連木城に、牧野は牛久保城に逃げ帰ったとされています。

4．まとめ

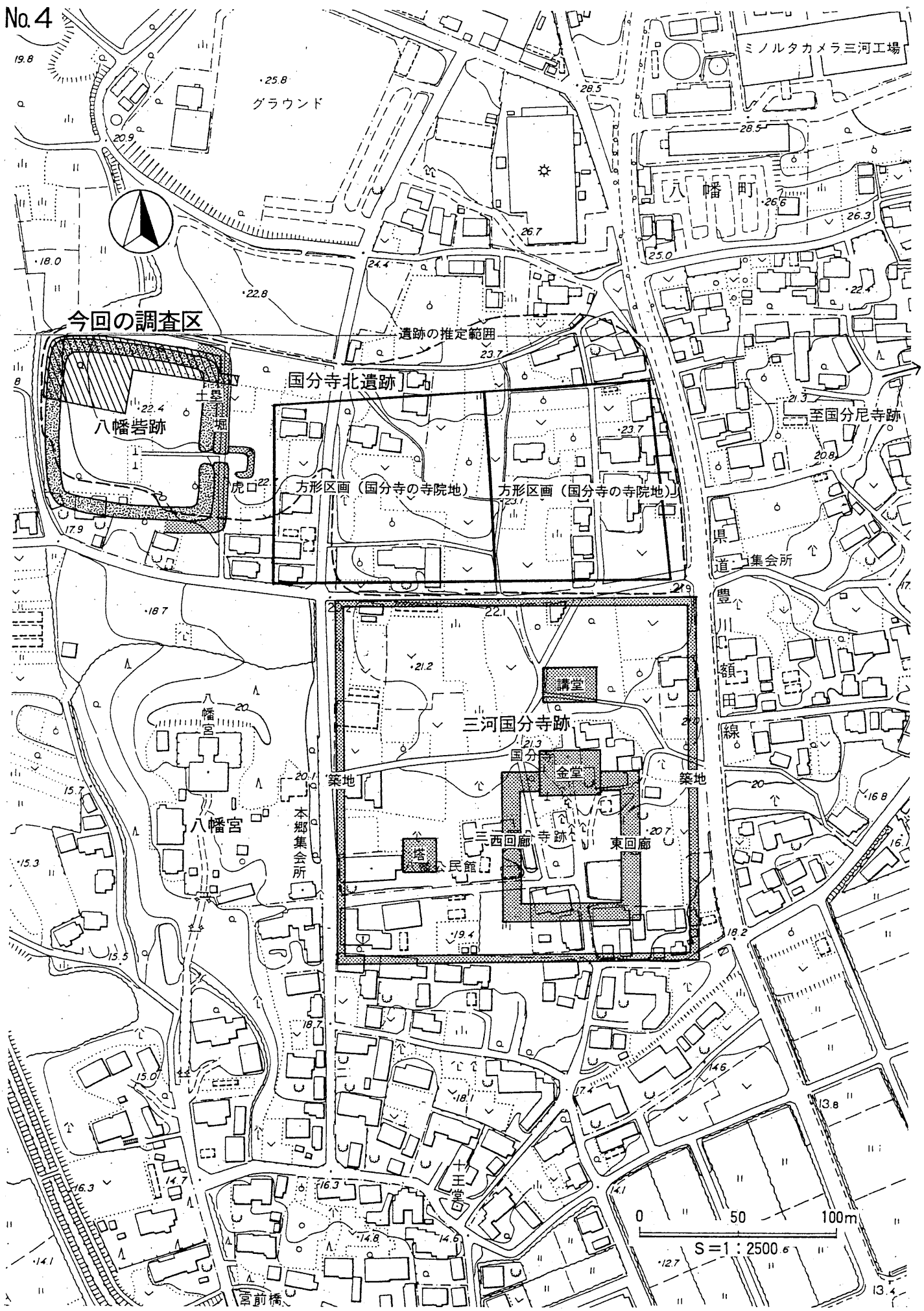
今回の調査と過去の調査を含めて、八幡砦跡に関しては約6,000㎡の面積を調査しています。城跡の規模は100m×100mのほぼ正方形の方形単郭であり、総面積は約10,000㎡と推定されることから、城跡のほぼ三分の二の面積を調査したことになります。

これほどの面積を調査したことで、城跡の全体像がほぼ明らかとなったと言えるでしょう。ただし、未掘地点も残されており、城の主となる建物も検出されていないことから、今後の調査で明らかにできればと考えています。

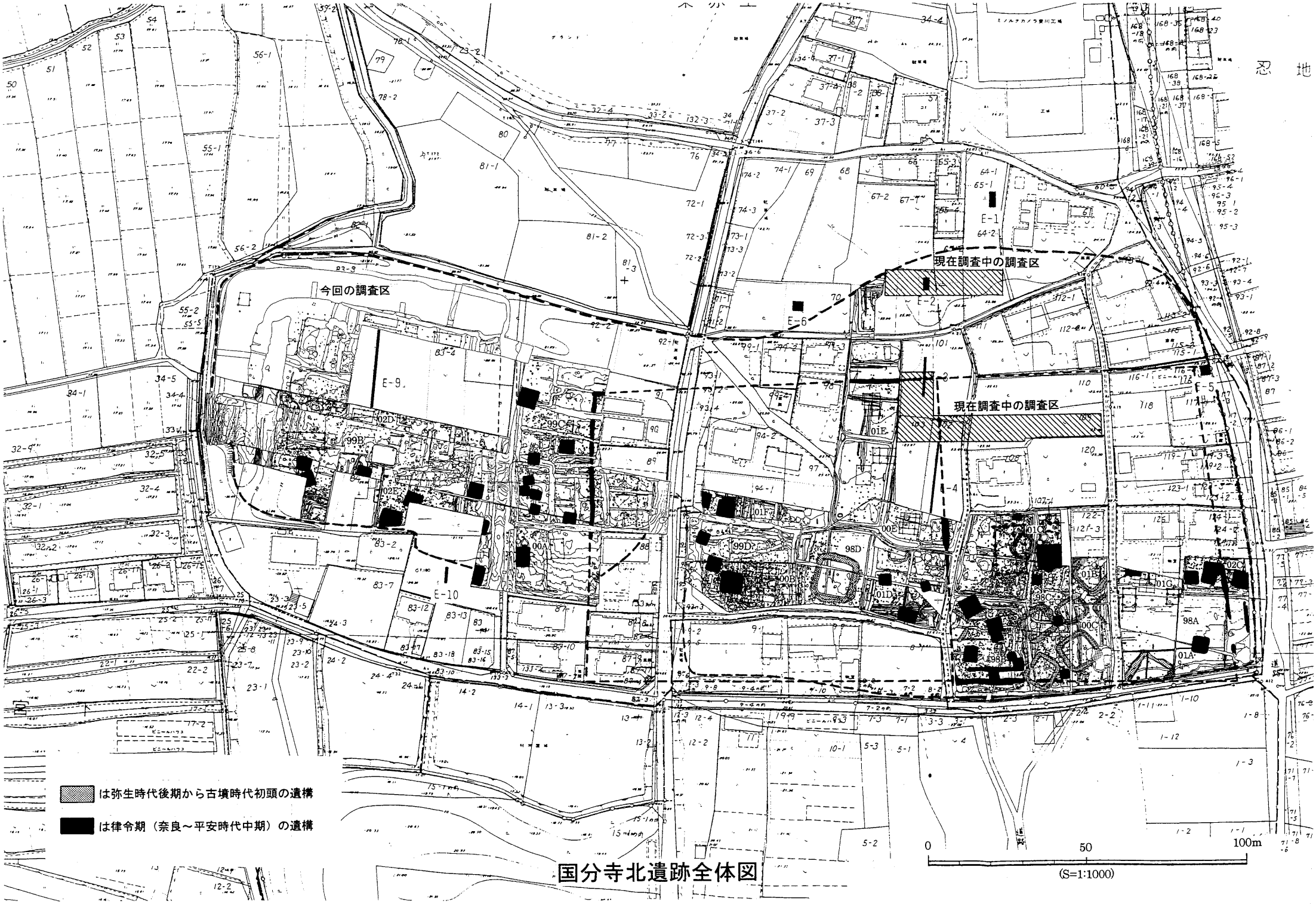
八幡砦跡を含めたこの「国分寺北遺跡」については今後も数ヵ年かけて調査が行われる予定であるため、まだまだ新たな事実が明らかになっていくものと思われます。

なお、遺跡の東側にあたる地点では、現在新たな調査が進められており、こちらの地点では三河国分寺跡に関連した遺構・遺物の発見が期待されています。今後の調査に期待がかかるところです。

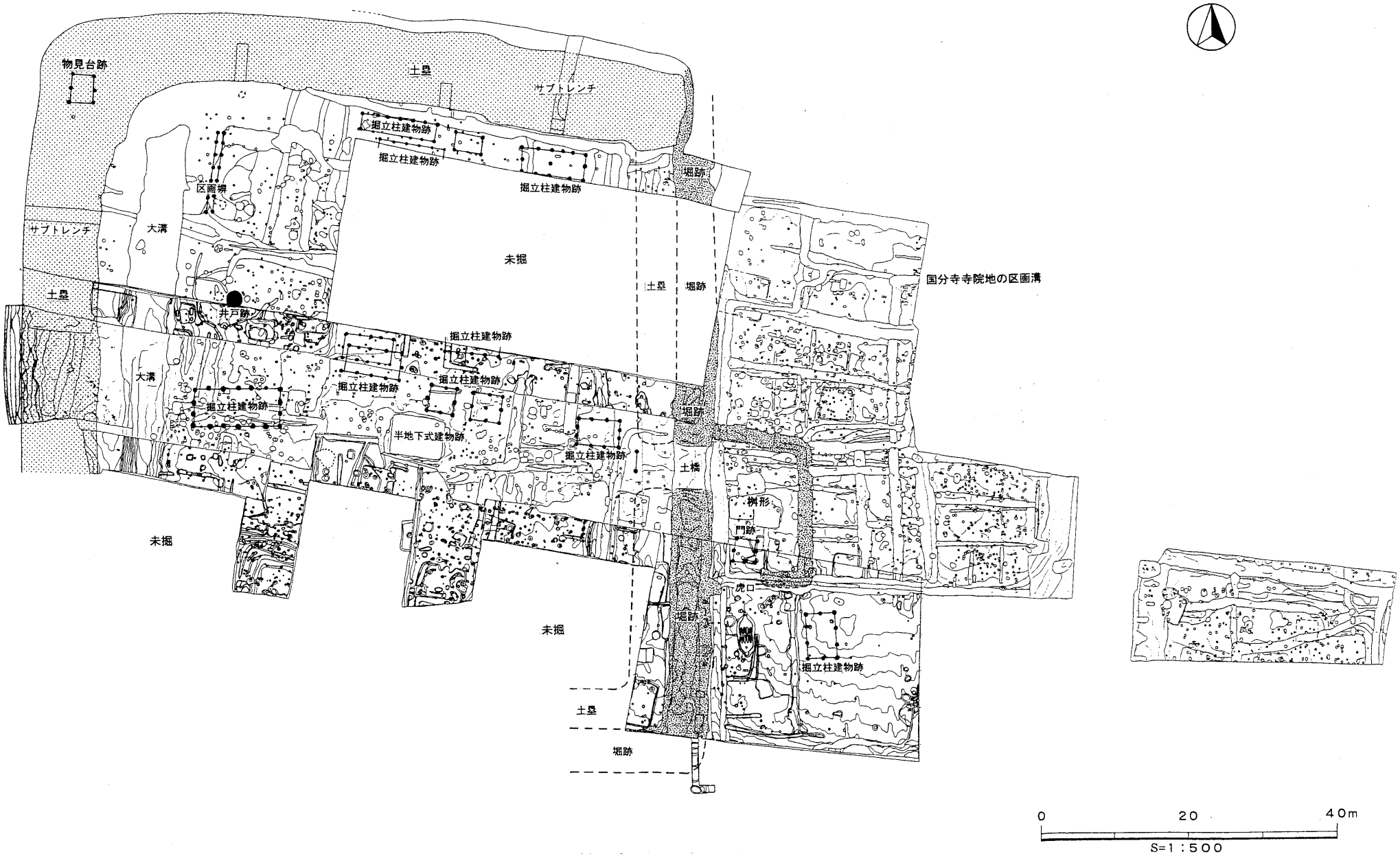
No.4



国分寺北遺跡周辺図


今回の調査区
現在調査中の調査区
現在調査中の調査区
E-1
E-2
E-5
E-6
E-9
E-10
99B
99C
99D
98D
98C
98B
98A
00A
00B
00C
00D
00E
01A
01B
01C
01D
01E
01F
01G
02C
02D
02E
0
50
100m
(S=1:1000)
は弥生時代後期から古墳時代初頭の遺構
は律令期（奈良～平安時代中期）の遺構

国分寺北遺跡全体図


物見台跡
土塁
サブトレンチ
掘立柱建物跡
掘立柱建物跡
掘立柱建物跡
堀跡
区画塀
大溝
サブトレンチ
未掘
土塁
堀跡
国分寺寺院地の区画溝
土塁
井戸跡
掘立柱建物跡
大溝
掘立柱建物跡
掘立柱建物跡
掘立柱建物跡
堀跡
半地下式建物跡
掘立柱建物跡
土橋
桝形
門跡
未掘
虎口
堀跡
未掘
掘立柱建物跡
土塁
堀跡
0
20
40m
S=1：500

八幡砦跡 遺構全体図